

## 現代中国語における“把構文”の成立条件

## —「“把”の後置名詞」の未知／既知に注目した考察—

陳 述

## Abstract

This paper examines the conditions for the BA-construction in modern Chinese, focusing on the pragmatic properties of postpositional nouns that follow the particle BA. Patient nouns in the BA-construction convey information that is either known or unknown to the listener, and the numeral phrase *yi ge* (“one”) may precede the patient noun. When the patient noun is known information, only a bare noun phrase is used as a patient noun, because the speaker believes that the listener is able to identify the referential object of the patient noun. When the patient noun is unknown information, the numeral phrase *yi ge* can accompany with the patient noun in the BA-construction. In this case, no linguistic antecedent appears in the preceding context, because the speaker does not want to point out the referential object clearly. If the patient noun is newly recognized information to the listener, both the numeral phrase *yi ge* and a modifier accompany the patient noun; this is because the speaker wants to point out the referential object clearly.

キーワード……把構文 未知情報 一个

## 1. はじめに

現代中国語には、“把構文”と呼ばれる構文がある。 “把構文”では、動作対象が動詞よりも前に現れるという特徴がある。本稿では、この動作対象を“把”の後置名詞と呼ぶことにする。従来の研究では、“把”の後置名詞の指示対象は話し手にとって特定のものでなければならないと、しばしば指摘されている(呂叔湘 1980; 王还 1985; 陶红印・张伯江 2000)。また次の例(1)が示すように、“把”の後置名詞は数量詞を伴わないのが一般的である。

(1) 她 把-苹果 吃-了<sup>2)</sup>。(自作例)

彼女 BA-リンゴ 食べる-le

「彼女はリンゴを食べた」

例(1)の話し手と聞き手は、“把”の後置名詞の“苹果”「リンゴ」がどのリンゴを指すのか、すでにわかっている。一方、次の例(2)が示すように、“一个”「1人/1個」を伴うかどうかで、“把”

の後置名詞の指示対象の意味が変わることがある。

(2) 刚才， 我 把-{ 孩子 / 一个孩子 } 撞-了。(自作例)

さっき 私 BA-子供 1人の子供 ぶつかる-le

「さっき、私は{自分の子供/(ある)子供}にぶつかってしまった」

例(2)では、“孩子”「子供」と“一个孩子”「1人の子供」のどちらも適切である。単に“孩子”「子供」が用いられた場合、話し手も聞き手もその子が誰なのかあらかじめわかっている。一方で“一个”「1人」を伴うと、話し手しかその子供を知らないというニュアンスが生じる。

ところが、次の例(3)のように、“一个”「1個」を伴うとかなり不自然な文となる場合もある。

(3) 老李 把-{ 钱包 / ??一个钱包 } 丢-了。(自作例)

李先生 BA-財布 1個の財布 なくす-le

「李先生は財布をなくしてしまった」

例(3)で単に“钱包”「財布」のみが用いられると、話し手と聞き手は、それが李さんの財布を指しているとわかっている。しかし“一个”「1個」を伴った場合、文脈がなければ、どのようなニュアンスを表すかはわからない。

この点に関して王还(1985)は「裸名詞のみが用いられる場合は、「指示対象が特定されているので、話し手と聞き手はあらかじめその対象をわかっている」と捉え、“一个”「1人/1個」を伴う場合は、「話し手しか指示対象を特定できない」という。王还(1985)のこの主張は、中国語の性質をよく捉え、“把構文”の研究に大きく貢献した。しかし、王还(1985)のみならず、张伯江(2000)、陶红印・张伯江(2000)らにおいても、依然として「なぜこのような違いがあるのか、なぜ話し手はこのように使い分けているのか」という点については十分な説明がなされていない。以下では、“把”の後置名詞が表す情報は既知情報なのかそれとも未知情報なのかという点に着目し、この問題点を明らかにする。

## 2. 既知情報と未知情報の定義

本稿は既知情報と未知情報を『言語学大辞典』に基づいて定義する。既知情報(known information)とは話し手と聞き手との間であらかじめ知られている情報をいう。未知情報(unknown information)とは発話時に話し手しか知らない情報をいう。

次に、上で定義した既知情報と未知情報を具体例(4)(5)で提示する。例(4)は既知情報、例(5)は未知情報である。

- (4) 她 把-苹果 吃-了。(= (1))

彼女 BA-リンゴ 食べる-le

「彼女はリンゴを食べた」

- (5) (王さんは道中の出来事を同僚に話す)(自作例)

王さん:刚才, 我 把-一个孩子 撞-了。

さっき 私 BA-1 人の子供 ぶつかる-le

「さっき、私は子供にぶつかってしまった」

例(4)では、発話時に話し手と聞き手は、あらかじめ“苹果”「リンゴ」がどのリンゴを指すのかわかっている。したがって、“苹果”「リンゴ」は話し手と聞き手にとっての既知情報である。一方、例(5)では、発話時に“一个孩子”「1人の子供」が誰なのかは話し手しか知らないため、“一个孩子”「1人の子供」は、聞き手にとっての未知情報である。次章では、“把”の後置名詞の指示対象に関する従来の先行研究の主張と問題点について検討する。

### 3. “把”の後置名詞の指示対象に関する従来の先行研究の検討と問題点

本章では、吕叔湘(1980)、王还(1985)、张伯江(2000)、陶红印・张伯江(2000)を中心に、“把”の後置名詞の指示対象に関する従来の考え方を整理しながら、本稿の主張を示すことにする。

まず、吕叔湘(1980)は、“把”の後置名詞の指示対象は意味上つねに定的なものでなければならぬと指摘している。つまり“把”の後置名詞のすべては既知情報であると考えられる。

- (6) a. 把-书 拿来。(吕叔湘 1980: 8)

BA-本 持ってくる

「(その)本を持ってこい」

- b. 把-两本书 都-看-完-了。(吕叔湘 1980: 8)

BA-2 冊の本 全部-読む-終わる-le

「2冊の本を読み切った」

吕叔湘(1980: 8)によれば、例(6)aの“书”「本」も、例(6)bの“两本书”「2冊の本」も、前文の先行名詞句に照応する。したがって、例(6)aの“书”「本」と例(6)bの“两本书”「2冊の本」がどの本を指すか、話し手と聞き手は発話時にとっさに分かる。つまり、吕叔湘(1980)は、既知情報と未知情報の分類は、前文に先行名詞句があるかないかによると考えている。

次に、王还(1985)、张伯江(2000)および陶红印・张伯江(2000)をみよ。王还(1985)と陶红

印・張伯江(2000)はどちらも呂叔湘(1980)の主張を發展させ、“把”の後置名詞には既知情報だけでなく、未知情報も存在していると指摘している。しかし、既知情報と未知情報の分類基準をめぐっては、両者に食い違いがみられる。

王还(1985: 51)は、“把”の後置名詞が表す意味を“专指”「特定指示」、「泛指」<sup>3)</sup>「総称」<sup>3)</sup>、“确指”「確定指示」の3つに分けている。王还(1985: 51)によると、“专指”<sup>4)</sup>「特定指示」とは、最もよく見られる“把構文”の目的語(原文のまま)<sup>5)</sup>であり、述語動詞は処置義<sup>6)</sup>を表す動詞であれば、どの“把構文”にも用いることができ、特別の制約がない。

- (7) 你 赶快 把两篇文章 写-了-吧, 编辑部又来催了。(王还 1985: 51)  
あなた 急いで BA-2 本の原稿 書く-le-語気助詞  
「急いで例の原稿(2本)を書きなさいよ。編集部の人がまた来ている」

また、“确指”(確定指示)とは、“把構文”の目的語(原文のまま)が述語動詞から制約を受けて動作を通して確定するに至るモノである。

- (8) 小林 把一件毛背心 织-得-又肥又大。(王还 1985: 51)  
林さん BA-1 枚のセーター 編む-結果補語-ぶかぶかに  
「林さんはセーターをぶかぶかに編んでしまった」(筆者訳)

- (9)<sup>7)</sup> 小张 把个孩子 生-在-火车-上-了。(王还 1985: 51)  
張さん BA-1 人の子供 産む-で-列車-上-le  
「張さんは子供を1人列車の中で産んだ」(筆者訳)

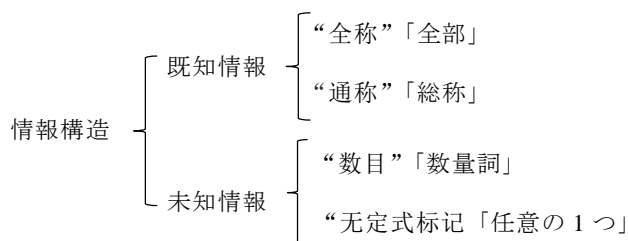
王还(1985: 51)によると、例(7)の“两篇文章”「2本の原稿」の指示対象は“专指”「特定指示」である。例(8)の“一件毛背心”「1枚のセーター」、例(9)の“个孩子”「1人の子供」それぞれの指示対象は“确指”「確定指示」である。王还(1985: 51)は、例(7)の“两篇文章”「2本の原稿」の指示対象はすでに事前に打ち合わせたものであるが、例(8)の“一件毛背心”「1枚のセーター」と例(9)の“个孩子”「1人の子供」の指示対象は例(7)と異なり、話し手しか知らないと指摘している。

すなわち、王还(1985: 51)が主張した“专指”「特定指示」の指示対象は、発話時に話し手と聞き手の間であらかじめ知られているので、呂叔湘(1980)のいう定名詞句に相当する。つまり、既知情報である。“确指”「確定指示」の指示対象は発話時に話し手しかわからないので、聞き手にとっての未知情報であると理解できる。

それに対して、陶紅印・張伯江(2000)は、談話に導入される名詞句の形式によって、“把”の

後置名詞が指す情報を既知情報と未知情報の2つに分けている。陶红印・张伯江(2000: 8-11)は、“把”の後置名詞が先行名詞句に照応する場合、あるいは先行名詞句から推測可能な場合、それが指す情報を既知情報としている。また談話に新しく導入される場合、それが指す情報を未知情報としている(図1)。

図1 情報構造の分類



(陶红印・张伯江(2000: 8-11)に筆者が加筆)

さらに张伯江(2000: 12)は、“一件毛背心”「1枚のセーター」の場合も、依然としてセーターという個体を指し、図1の“通称”「総称」といえるだろうと分析している。しかしながら、上記の张伯江(2000: 12)の指摘を陶红印・张伯江(2000: 8-11)(図1)と関連付けて考えると、疑問が生じざるを得ない。一つは、図1の“通称”「総称」の定義に矛盾が見られることである。筆者は次の例(10)と例(11)を挙げて“通称”「総称」の定義の矛盾を指摘する。

(10)<sup>8)</sup> a. 小王: “我老婆(小林)把 一件毛背心 织得又肥又大。”

「妻はセーターをぶかぶかに編んでしまった」

老李: “哪件? 你 身-上-这件?”

「どのセーター? 今日着ているやつ?」

b. 小王: “我老婆(小林) 把 毛背心 织-得-又肥又大。”

妻 BA-セーター 編む-結果補語-ぶかぶかに

「妻は(例の)セーターをぶかぶかに編んでしまった」

老李: “你-老婆 织-的-时候 我-就 说-大。”

「奥さんは編んだとき、(あのセーターが)大きすぎると言ったのよ」

例(10)a の会話を通じて、発話時には“一件毛背心”「1枚のセーター」の指示対象は、話し手の王さんにしかわかっていない。一方、例(10)b では、発話時に“毛背心”「セーター」の指示対象が、王さんと李さんとの間ですでに知られている。つまり、“一件毛背心”「1枚のセーター」と“毛背心”「セーター」が“把”の直後に用いられた場合、意味的な相違があることが明白である。それに対して、陶紅印・張伯江(2000: 8-9)が挙げた“通称”「総称」のニュアンスをみてみよう。

- (11) 从前，把-一只手表 / 手表 } 看-得-那样-珍重。(陶紅印・張伯江 2000: 9)  
昔 BA-1つの腕時計 腕時計 見る-結果補語-あれほど-貴重  
「昔は1つの腕時計でさえ、貴重品とされていた」

例(11)では、“一只手表”「1つの腕時計」の場合も、単に“手表”「腕時計」の場合も、総称として理解されるため、例(10)のような意味的な相違は生じない。

もう一つの疑問は未知情報の定義にある。陶紅印・張伯江(2000)は、未知情報は談話に新しく導入された名詞句を指すと指摘している。しかし、談話に新しく導入された名詞句は必ずしも未知情報であるとは限らない。次の例(12)は陶紅印・張伯江(2000: 8)が挙げたものである。

- (12) 天佑-太太 把-一根簪子 拔-下来：“卖了这个，弄两斤白面来吧！”  
天佑-妻 BA-1本の簪 抜く-来る  
「天佑妻は髪から簪を1本外して言った。『これで小麦粉を買おう！』」

例(12)の“一根簪子”「1本の簪」は動作主である天佑妻の所有物である。談話に新しく導入された名詞句であっても、聞き手がわかる指示対象であるので、未知情報とは言い難い。このように、張伯江(2000)と王还(1985)は、情報構造において、話し手と聞き手との間で情報が一致していないことに気付いたという点で共通している。

本稿では、王还(1985)、陶紅印・張伯江(2000)の考えを踏まえて、既知情報と未知情報を上位の分類とする。さらに未知情報を特定情報、新獲得情報、不特定情報の3つに下位区分する。先に本稿の観点を次の表1のようにまとめる。表1では会話参加者(2人)の会話という状況の中で、当該の情報を双方が理解している場合を「+」、そうでない場合を「-」の記号で表した。

表1. 既知情報と未知情報の分類 (筆者作成)

情報構造		話し手	聞き手
既知情報		+	+
未知情報	特定情報	+	-
	新獲得情報	+	- → +
	不特定情報	-	-

表1で示したように、既知情報か未知情報かは、発話時に聞き手が指示対象を知っているかどうかで決まる。未知情報は、話し手の発話意図により、特定情報、新獲得情報、不特定情報の3つに分けられる。次章から例文を用いて具体的な考察に入る。

#### 4. “把構文”の成立条件

前章では、発話時に聞き手が指示対象をすでに知っているかどうかにより、既知情報か未知情報かに分けられることを述べた。本稿では、発話時において既知情報と未知情報を分類する判断を下すのは、話し手の側であるという点を指摘したい。言い換えれば、発話に先立って、聞き手が指示対象をわかっているか、わかっていないのか、話し手は常に暗黙のうちに想定する。次の4.1節、4.2節では、既知情報と未知情報に分けて、話し手がどのように想定するのかを考察し、それぞれの成立条件をまとめる。

##### 4.1. 既知情報の場合の成立条件

呂叔湘(1980)は、“把”の後置名詞が表す情報が既知情報である場合、先行名詞句が必ず必要とされると指摘している。ところが、実際には“把”の直後に先行名詞句と同形の名詞句を用いて指示対象を指す場合もあるし、先行名詞句と異なる名詞句を用いて指示対象を指す場合もある。ここでは、話し手がどのように事情を想定するのかをより明確に考察するために、先行名詞句と“把”の後置名詞が異なる形式で表される場合を対象に考察を進めていく。

以下では、現代中国語コーパス(CCL)<sup>9)</sup>から抽出した例文をみてみよう。例(13~15)aが例(13~15)b、例(13~15)cと最も異なる点は、話し手の指示対象に対する想定の違いである。以下の例文では、先行名詞句を“\_”、後置名詞句を“\_\_”で示す。

(13) (社長は李嘉誠に次のように言った)

a. “你可以走了，真不明白 秘书 为什么 把-推销员 放-了-进来?”

わからない 秘書 なぜ BA-販売員 入れる -le-方向補語

「秘書はなぜ報告せずに販売員を通らせたのかわからない」

b. “你可以走了，真不明白秘书为什么 把-一个推销员 放了进来?” 《李嘉誠傳》

BA-1 人の販売員

「秘書はなぜ報告せずに販売員を 1 人通らせたのかわからない」

- c. 你可以走了，真不明白秘书为什么把一个-讨厌-的-推销员放了进来？

BA-1 人-いやな-の-販売員

「秘書はなぜ報告せずに、嫌な販売員を 1 人通らせたのかわからない」

- (14) a. 他 无法理解 一个清白的农家妇 怎么会 把贼 领进-自己的家门。  
彼 理解できない この純潔な 何で BA-悪人 連れ込む--自分の家  
「なぜこの純潔な農村主婦が、悪人を自分の家へ連れ込んだのか、彼には理解できない」
- b. 他无法理解一个清白的农家妇怎么会 把一个贼 领进自己的家门。

BA-1 人の悪人

「なぜこの純潔な農村主婦が、1 人の悪人を自分の家へ連れ込んだのか、彼には理解できない。」

- c. 他无法理解一个清白的农家妇女怎么会 把一个-无恶不作-的-贼 领进自己的家门。

BA-1 人-やらない悪事はない-の-悪人

「なぜこの純潔な農村主婦が、やらない悪事はない悪人を 1 人自分の家へ連れ込んだのか、彼は理解できない。 ((14) c は《紅莓》による)

- (15) a. 许绍发说，因为何智丽还在队里。乒协负责人和国家队教练们宁愿自己受委屈，也不愿把队员 搞得太灰。  
否定-ほしい-BA-選手 する-結果補語-非常に-悪くなる  
「中国卓球協会および監督としては、社会から不当な扱いがされたとしても、選手をひどく非難することはできないと、許さんは言った」
- b. 许绍发说，因为何智丽还在队里。乒协负责人和国家队教练们宁愿自己受委屈，也不愿把一个队员 搞得灰太灰。 《1994 报刊精选第 11 期》  
否定-ほしい-BA-1 人の選手  
「中国卓球協会および監督としては、社会から不当な扱いがされたとしても、(その)選手をひどく非難することはできないと、許さんは言った」
- c. 许绍发说，因为何智丽还在队里。乒协负责人和国家队教练们宁愿自己受委屈，也不愿把一个-老-队员 搞得灰太灰。  
否定-ほしい- BA-1 人-ベテラン-選手  
「中国卓球協会および監督としては、社会から不当な扱いがされたとしても、(その)ベテラン選手をひどく非難することはできないと、許さんは言った」



例(13~15)aでは、“把”の後置名詞である“推销员”「販売員」、 “贼”「悪人」、 “队员”「選手」といった集合名詞が、それぞれ先行名詞句である“李嘉诚”「李先生」、 “他”「彼」、 “何智丽”「何さん」を指すことが聞き手にわかると、話し手が発話に際して想定していた。一方、例(13~15)bと例(13~15)cでは、いずれも、話し手は、“把”の後置名詞が集合を表すという聞き手の誤解を避けるために、数量詞“一个”「1人」、あるいは修飾語を用いて、明示的に先行名詞句である指示対象を指している。

また、先行名詞句が物である場合も裸名詞の容認度が低い状況と想定される。

- (16) a. ?<sup>10</sup>我家树天灯,是为父亲许愿的。是一棵大杉木上有一个小木轮系着长绳。树起以后,  
用 绳子 把-纸灯笼 拉-上-去。 《正红旗下》  
で 紐 BA-紙灯籠 引っ張る-上-行く  
『天灯』は神様に父親の健康を祈るためのものである。庭にある太くて高い杉の高い枝に木の歯車を固定する。紐の一端を歯車に結ぶ。準備ができれば、紙灯籠をその紐で枝まで引っ張って固定する」
- b. 树起以后,用绳子 把-一个纸灯笼 拉上去。  
BA-1 つの紙灯籠  
「準備ができれば、紙灯籠を1つ、その紐で枝まで引っ張って固定する」
- c. 树起以后,用绳子 把-一个红色-的-纸灯笼 拉上去。  
BA-1 つ-赤い-の-紙灯籠  
「準備ができれば、赤い紙灯籠を1つ、その紐で枝まで引っ張って固定する」
- (17) (城門が解体されて以来、梁思成と林徽因夫婦はずっと残念がっている)
- a. ?三座城門拆了我非常难受,实在是 把-宝贝 给-毀-了。 《林徽因》  
本当に BA-宝物 前置詞-破壊する-le  
「三つの城門の解体は非常に悲しい。宝物が破壊されてしまった」
- b. 三座城門拆了我非常难受,实在是 把-一个宝贝 给毀了。  
BA-1 つの宝物  
「三つの城門の解体は非常に悲しい。一つの宝物が破壊されてしまった」
- c. 三座城門拆了我非常难受,实在是 把-一个-精美-的-宝贝 给毀了。  
本当に BA-1 つ-素晴らしい-の-宝物  
「三つの城門が壊されて非常に悲しい。素晴らしい宝物が1つ破壊されてしまった」

例(16)の“纸灯笼”「紙灯籠」、例(17)の“宝贝”「宝物」は総称である。コンテキストにある指

示対象が1つしかないため、これらの総称名詞は指示対象以外のモノも含意すると思われる。したがって容認度が低くなる。一方で、例(16、17)bと例(16、17)cはどちらも適切である。つまり、話し手は、“把”の後置名詞の語用論上の意味が集合を表すという誤解を避けるために、数量詞“一个”「1人」と修飾語を用いて、明示的に先行名詞句である対象を指していることが明らかである。その証拠として、次の例(18)例(19)をみてみよう。

(18) a. ?许绍发说，因为队员还在队里。乒协负责人和国家队教练们宁愿自己受委屈，也不愿把 何智丽 搞得太灰。

「中国卓球協会の方々と監督としては、社会から不当な扱いがされたとしても、何さんをひどく非難することはできない、と許さんは言った」

b. \*许绍发说，因为队员还在队里。乒协负责人和国家队教练们宁愿自己受委屈，也不愿把 一个何智丽 搞得太灰。

(19) a. 来吧，都抽烟吧！他 把-大前门 扔-出去。 《老舍长篇》

彼 BA-大前門 投げる-行く

「おいで、みんなでタバコを吸おう！彼は大前門を渡してやった」

b. 来吧，都抽烟吧！他 把-一盒<sup>1)</sup> “大前门” 扔出去。

BA-1つの大前門

「おいで、みんなでタバコを吸おう！彼は『大前門』を1つ渡してやった」

例(18)aでは、先行名詞句である“队员”「選手」が選手全員を指すので、語用論上、“把”の後置名詞である“何智丽”「何さん」は選手の一員かどうか不明確となる。そのため、例(18)aの容認度が低くなる。例(18)bでは、“何智丽”「何さん」は固有名詞であるため、“一个”「1人」を伴うことができない。一方、例(19)aにおける“把”の後置名詞である“大前門”は先行名詞句の“烟”「タバコ」の銘柄であるのは、話し手と聞き手との間で了解されているので、例(19)aは既知情報である。例(19)bの聞き手は勧められたタバコは大前門であることをその場ではじめて知ったこともあり得るので、未知情報と考えられる。以上のことを次の表2にまとめる。

表2. 先行名詞句と後置名詞が異なる場合の“把”の後置名詞の容認度（筆者作成）

裸名詞	一个+名詞	一个+修飾語+名詞
○	×	×

(○は成立の容認度が高く、×は容認度が低いことを意味する)

以上に示したように、“把”の後置名詞の指す情報が既知情報である場合、裸名詞しか“把構

文”を成立させない。“一个+名詞”と“一个+修飾語+名詞”における“一个”「1人/1個」と修飾語は、聞き手に指示対象をわからせるために、使用される明示的な文脈である。そのため、容認度が低くなる。この点について、次節の未知情報で分析する。

#### 4.2. 未知情報の場合の成立条件

前述したように、未知情報は、発話時の話し手の発話意図によって特定情報、新獲得情報、不特定情報の3つに下位分類される。以下では3つの項に分けてそれぞれの話し手の発話意図を分析し、その成立条件をまとめる。まず、4.2.1.では特定情報を考察する。次に、4.2.2.においては新獲得情報を考察する。それから、4.2.3.で不特定情報を考察する。

##### 4.2.1. 特定情報

この項で考察する特定情報は、前述した王还(1985: 50-51)の指摘した未知情報に相当する。本稿の観点では、特定情報の場合、話し手には、聞き手に指示対象を明確に伝えようとする意図がない。そのため、その指示対象は話し手しかわかっていないと考えられる。以下では、指示対象を個体物、所有物、生産物、非個体物の4つに分けて、考察を進めていく。

- 「個体物」
- 撞了。
- 人の子供 ぶつかる-le
- 「王さんが(ある)子供にぶつかってしまった」
- b. 老王 把-孩子 撞了。
- BA-子供
- 子供にぶつかってしまった」
- 岁-的-孩子 撞了。
- 歳-の-子供
- 「王さんが10歳の子供1人にぶつかってしまった」
- (子供は花瓶を倒したことをお母さんに話す) 「個体物」
- 倒す-le
- つ倒して割ってしまった」
- 碰倒了。
-

「私は(例の)花瓶を倒して割ってしまった」

把-一个-大-花瓶 碰倒了。

つ-大きな-花瓶

つ倒して割ってしまった。」

も同様の解釈ができる。

「所有物」

財布屋-李さん BA-1つの財布 なくす-le

「李さんは財布を1つなくしてしまった」

把-钱包 丢了。

BA-財布

「李さんは財布をなくしてしまった」

把-一个-装零钱-的-钱包 丢了。

BA-1つ-小銭入り-の-財布

「財布屋の李さんは小銭入りの財布を1つなくしてしまった」

- (23) a. 爷爷 破-了-产, 把-一个叔叔 卖-给-人家。「所有物」《1994 报刊精选第 8 期》  
祖父 破産する-le BA-1人のおじさん 売る-に-人

卖给人家。

BA-おじさん

「祖父は破産した後、おじさんを人に売ってしまった」

卖给人家。

BA-1人-幼い-おじさん

- 、23)aは“钱包”（財布）、「叔叔」「おじさん」はそれぞれ李さんの財布と、祖父の子供の任意  
、23)cはいずれも修飾語を用いて、明示的に指示対象を指すので、新獲得情報である。

「生産物」

一文字 書き間違ふ-le

「友達代わりにチケットを購入した時、名前を一文字書き間違った」

- b. 帮-朋友定票-时, 把-字 写错了。

BA-漢字

「友達の代わりにチケットを購入した時、名前の漢字を書き間違った」

- c. 帮-朋友定-票-时, 把-一个-日语-汉字 写错了。

BA-1 個-日本語-漢字

「友達の代わりにチケットを購入した時、(名前)日本語訳を一文字書き間違った」

例(24)a～c のいずれも上記と同様の解釈ができる。それぞれ特定情報、既知情報、新獲得情報である。例(24)a の場合、間違った字は話し手しかわからないため、特定情報である。例(24)b の場合は、間違ったのは友達の名前であるので、既知情報である。例(24)c の場合は、“一个”「1 個」と“日语”「日本語」は明示的な文脈であるため、新獲得情報である。一方、次では、指示対象は非個体物であるため、“一个”「1 人/1 個」を伴うことができない。

(25) (自分の失敗作について友達に話す)

「非個体物」

■ 酿酸了。

BA-一つ-赤-ワイン

- b. 我 把-葡萄酒 酿-酸-了。

私 BA-ワイン 作る-しょっぱい-le

「発酵させすぎて、ワインがしょっぱくなった」

■ 酿酸了。

BA-一つ-赤-ワイン

以上のことを次の表3にまとめる。

表 3. 特定情報の場合の“把”の後置名詞の容認度（筆者作成）

後置名詞の分類	裸名詞	一个+名詞	一个+修飾語+名詞
個体物	×	○	×
所有物	×	○	×
生産物	×	○	×
非個体物	×	×	×

（○は成立の容認度が高く、×は容認度が低いことを意味する）

以上に示したように、特定情報の場合、“一个+名詞”しか“把構文”を成立させない。裸名詞の場合は、すでに前節で述べたように、その指示対象は話し手と聞き手の双方にとっての既知情報である。“一个+修飾語+名詞”の場合、新獲得情報となる。一見、新獲得情報は特定情報と勘違いされやすいが、その相違点は次の 4.2.2. で述べる。

#### 4.2.2. 新獲得情報

新獲得情報とは、話し手が、聞き手がわかるように、“一个”「1人/1個」や修飾語を用いて明示的に伝えようとした指示対象を指す。

「10岁的孩子 撞了。” (= (20c))

「王さんが(ある)10歳の子供にぶつかった」

吧。”

語気助詞

「その子供は大丈夫ですか」

李さん: “老王把 孩子 撞了。”

「王さんが子供にぶつかった」

張さん: “哎呀！“他-孩子 不要紧-吧。”

彼-子供 大丈夫だ-語気助詞

「まあ！彼の子供は大丈夫なの」

「10歳の子供」が新獲得情報である。しかし、例(26)bの“孩子”「子供」は王さんの子であることがすでに知られているので、この場合で李さんが最も伝えたいのは、「どこでぶつかったか」である。そのため、この表現は不適切である。

人いる。そのうちの1人にぶつかったという場面が想定される。

■

私 BA-1 人-子供 ぶつかる-le

「王さんは子供の1人にぶつかった」

■

■ 「その子はけがしたの。ほかの子は大丈夫なの」

■ のような会話は不適切となる。上記のことを次の表4にまとめる。

表4. 新獲得情報の場合の“把”の後置名詞の容認度（筆者作成）

裸名詞	一个+名詞	一个+修飾語+名詞
×	○	○

(○は成立の容認度が高く、×は容認度が低いことを意味する)

以上が示すように、新獲得情報の場合、“一个+名詞”と“一个+修飾語+名詞”のどちらも“把構文”が成立する。裸名詞の場合は“把構文”が成立しにくい。ここで注意してほしいのが示すように、聞き手が発話現場に制約されるかどうかによって、“一个”「1人/1個」のみを新獲得情報として捉えるか、それとも“一个+名詞”を新獲得情報として捉えるかといった、意味的な相違が生じるという点である。つまり、特定情報は新獲得情報として理解し得るが、新獲得情報は必ずしも特定情報として理解できるわけではない。

#### 4.2.3. 不特定情報

不特定情報とは、話し手すら特定できない情報である。では、次の例をみてみよう。

(28) 琼斯-太太：“我 把-什么东西 忘-车-上-了。” 《读者》

Jones-夫人 私 BA-何か 忘れる-車-上-le

「Jones夫人は『私は何かを車の中に忘れた』と言った」

次の表5は筆者が現代中国語コーパス(CCL)から抽出したデータ(9例)をまとめたものである。

表5. 不特定情報の場合の“把”の後置名詞の形式（筆者作成）

把の後置名詞	什么	什么+名詞	一个什么东西

		什么人	什么东西	什么礼物	
実例の数	1	1	5	1	1
意味	何か	誰か	何か	何かお礼の品でも	何か

表 5 が示すように、不特定情報の場合、“把”の後置名詞となれるのは、裸名詞 8 例、“一个＋名詞” 1 例である。意味はいずれもほとんど同じであるので、話し手すら指示対象を特定できないことがわかった。そのため“把”の後置名詞の形式も意味も定着化できない。

以上、既知情報と未知情報が用いられる場合の、それぞれの“把構文”の成立条件を考察した。既知情報の場合、裸名詞しか“把構文”を成立させない。この場合、話し手の想定が必要不可欠条件となる。その理由は、先行名詞句が後置名詞句と同様の形式である場合は誤解を避けられるが、前者と後者が異なる場合はそれぞれの語彙的意味も異なるので、聞き手がわかると想定する限り、裸名詞が用いられるからである。未知情報の場合、“一个＋名詞”、“一个＋修飾語＋名詞”のどちらも“把構文”を成立させる。ただし、“一个＋名詞”は話し手の発話意図により、特定情報であったり、新獲得情報や不特定情報であったりすることが多い。

## 5. まとめ

本稿では、現代中国語の“把構文”に関して、“把”の後置名詞が表す情報が既知情報なのか、それとも未知情報なのかという点から考察した。以上の実例を通じて、既知情報と未知情報の場合のそれぞれの成立条件を次の表 6 にまとめる。

表 6. “把”の後置名詞と情報構造の関係（筆者作成）

情報構造		把の後置名詞の形式		
		裸名詞	一个＋名詞	一个＋修飾語＋名詞
既知情報		○	×	×
未知情報	特定情報	×	◎	×
	新獲得情報	×	○	○
	不特定情報	○	○	×

(○は容認度が非常に高い。◎は名詞の性質に制約される。×は容認度が低いことを意味する)

表 6 で示したように、既知情報の場合、“把”の後置名詞の 3 つの形式のうち、裸名詞しか“把構文”を成立させない。未知情報は、話し手の発話意図によって特定情報、新獲得情報、不特定情報の 3 つに分けられる。特定情報の場合、“一个＋名詞”しか“把構文”を成立させない。ただし、“一个”「1 人／1 個」が名詞の性質に制約されるため、指示対象が非個体物である場合



は”把構文”が成立しない。新獲得情報の場合、“一个+名詞”と“一个+修飾語+名詞”のどちらでも”把構文”が成立する。不特定情報の場合、裸名詞と“一个+名詞”の両方が”把構文”を成立させる。

本稿は、“把”の直後に用いられる“一个”「1人/1個」を中心に考察したが、今後は、本稿で明らかにした“把”の後置名詞の成立条件の分析結果に基づき、数詞“一”が現れず、“个”「個」のみが“把”の直後に用いられる場合と関連づけて考察を進めたい。

## <注>

- 1) 本稿では、“把”の後置名詞が動作主であるかどうかによって把構文を2種類に分ける。グループ1は“把”の後置名詞が動作対象である構文である。たとえば“我把衣服洗了”「私は服を洗った」の“衣服”「服」は動作行為の対象である。グループ2は“把”の後置名詞が動作行為を行う動作主である構文である。たとえば、“工作把小王累倒了”「あまりの仕事の辛さに王さんが疲れて倒れてしまった」の“小王”「王さん」は動作主である。本稿の考察はグループ1に重点を置き、グループ2は考察対象外とする。
- 2) 中国語学においては、“了”を“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”に分けるのが一般的である(刘月华等 2000)。しかし、本稿では“把”の後置名詞に焦点を当てているので、“了”は“了<sub>1</sub>”と“了<sub>2</sub>”を分けずに統一的に“le”と呼ぶことにする。
- 3) 王还(1985: 51)が主張した“把”の後置名詞の3分類に関して、本稿では、問題とされる“一个”「1人/1個」に最もかかわる“专指”「特定指示」と“确指”「確定指示」を考察対象とし、“泛指”「総称」は考察対象外とする。
- 4) “专指”「特定指示」、「确指」「確定指示」の定義の訳文は藤田益子(2010)の訳を加筆したものである。
- 5) 傍点の「目的語」の定義に関して、王还(1985)と本稿の研究する立場は異なる。王还(1985)は、“把”の直後に用いられる名詞句を“把構文”の意味上の目的語と定義しているが、本稿では“把”の後置名詞と定義する。ただし、ここでは、王还(1985)の論述に基づき、原文のまま訳することにする。
- 6) 王力(1943)は“把構文”が表す意味を「処置」と定義した。処置とは、人やモノをいかに処理するか、あるいは扱うか、または物事をいかに処理するか、あるいは進めるかということの意味する。したがって“把構文”を処置構文とも呼んだ。吕叔湘(1980: 8)は前置詞である“把”が表す機能について論じている。それ以来、中国語学において、処置構文ではなく、“把構文”という定義が定着化している。本稿も吕叔湘(1980)と同様の立場に立ち、広義上、前置詞“把”が用いられる構文を“把構文”と呼ぶことにする。
- 7) 王还(1985)は数量詞“个”「個」と“一个”「1人」を区別しない。ここでは、王还(1985)の指摘に沿い、“个孩子”「子供」を“一个孩子”「1人の子供」と理解することにする。“个”「個」と“一个”「1人」の意味的相違の詳細については藤田益子(2010)を参照。
- a, bは王还(1985: 51)の例文“小林把一件毛背心织得又肥又大”に筆者が加筆したものである。
- 9) CCL: 北京大学中国言語学研究センターのデータベース(<http://ccl.pku.edu.cn/corpus.asp>)。
- 10) 本稿では、「\*」はその表現が文法上不成立であるため、例文を訳さない。「?」は不適切であることを表すので、例文を訳す。
- 11) 本稿では、考察の便宜上“一个”「1個」を“一盒”「1つ」と区別しないこととする。

## <引用文献>

亀井孝・河野六郎・千野栄一(1988-1996)『言語学大辞典』,三省堂。

刘月华等(2000)《实用现代汉语语法(增订本)》,外语教育与研究出版社。

吕叔湘(1980)《现代汉语八百词》,商务印书馆。

杉村博文(2002)〈论现代汉语“把”字句“把”的宾语带量词“个”〉,《世界汉语教学》,第1期,18-27頁。

現代中国語“把構文”の成立条件（陳述）

陶红印・张伯江(2000)〈无定式把字句在近、现代汉语中的地位问题及其理论意义〉，《中国语文》，第5期，1-19頁。

藤田益子(2010)「“把”構文における賓語の性質と量詞の機能について」、『新潟大学国際センター紀要』，第6号,18-73頁。

王还(1985)〈把字句中“把”的宾语〉，《中国语文》，第1期，48-51頁。

王力(1943)《中国现代语法》，《王力文集》(1985)，第1卷，山东教育出版社。

张伯江(2000)〈论“把”字句的句式语义〉，《语言研究》，第1期，28-40頁。

### <例文出典>

《红莓》，瓦西里·马卡罗维奇·舒克申著，韦范序訳，上海译文出版社，1987年。

《李嘉诚传》，蒋多著，安徽文艺出版社，2012年。

《正红旗下》，老舍著，文汇出版社，2008年。

《林徽因》，张清平著，百花文艺出版社，2002年。

《老舍长篇》，老舍著，文汇出版社，2008年。

《读者(合订本)》，读者编辑部著，读者杂志社，2013年。

《1994报刊精选》，1994年第8期，第11期，著者不詳である。

※出典のない例は、筆者が出典を明記した例文に加筆したものである。

主指導教員（江畑冬生准教授）、副指導教員（朱繼征教授・大竹芳夫教授）